

KC研修生の  
(関西国際センター)

# Nipponレポート

第10回

アイヌの人々の  
暮らし

このコーナーでは、関西国際センターの日本語研修に参加している  
研修生が研修を通して発見したNipponについてレポートします。



「外交官・公務員日本語研修」に参加したハーニー・ナイームさん（モルディブ）、パウリーナ・ヒメネズさん（エクアドル）、クラウディア・アラベナさん（チリ）は、アイヌの人々の暮らしについて知りたいと思い、北海道の白老にあるアイヌ民族博物館（しらおいポロトコタン）を訪問しました。

◀ アイヌの男の人といっしょに

## アイヌの人々の暮らしを見ました。



【ポロトコタンの入口】

「ポロトコタン」は、アイヌ語で「大きい湖の村」という意味です。博物館が湖の近くにあるからです。写真下の「イランカラフテ」は、アイヌのあいさつのことばです。



【アイヌの家（復元）】

白老地方では、家の入口は西側にあります。家の東側には神様が出入りするための窓があり、儀式のときに使われます。



【食物貯蔵庫】

サケ (salmon) はアイヌの人々にとって大切な食べ物です。人々は、サケがとれる川の近くに村を作りました。たくさんとったサケは、外で干してから貯蔵庫に保存します。



Q. 今、日本にアイヌはたくさんいますか。



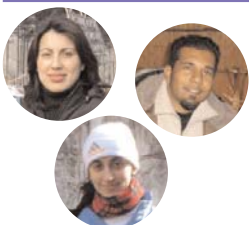
A. はっきりとはわかりません。北海道庁の調べで約23,000人が北海道に住んでいると発表されていますが、実際にはその、5倍とも10倍ともいわれています。

昔、アイヌの男の人は長いひげをしていました。ひげは大人であるという証 (proof) だったそうです。



【アイヌの踊り】

これは白老地方に伝わるアイヌの伝統的な踊りです。熊の霊を送る儀式などのときに踊られたそうです。



「しらおいポロトコタン」では、アイヌの人々とその暮らしについていろいろ知ることができて、とてもおもしろかったです。

さらに、失われつつあるアイヌの豊かな文化と伝統を次の世代に伝えるために働いているスタッフにお話を聞いたことで、アイヌの人々の現状についても、より深く知ることができました。

▽ アイヌの暮らしについてもっと知りたい人は下のURLを見てください。

- ・アイヌ民族博物館（しらおいポロトコタン）（日本語／英語／中国語）<http://www.ainu-museum.or.jp>
- ・アイヌ文化振興・研究推進機構（日本語／英語）<http://www.frpac.or.jp/index.html>

このコーナーの担当者：廣利正代（関西国際センター日本語教育専門員）リポーター：ハーニー・ナイーム（モルディブ）、パウリーナ・ヒメネズ（エクアドル）、クラウディア・アラベナ（チリ）